

麦の穂

発行責任者 医療法人光臨会 理事長 荒木 攻

73

平成29年
11月10日発行

医療法人 光臨会
荒木脳神経外科病院
Araki Neurosurgical Hospital

第20回日本臨床脳神経外科学会を終えて

平成29年7月15日(土)・16日(日)の両日、私が学会長を拝命し広島市の広島平和記念公園内の広島国際会議場において、第20回日本臨床脳神経外科学会を開催しましたところ、全国から1,400人を超える御参加をいただき、成功裏に終えることができました。

本学会のテーマを「2025年問題に向けて一脳神経外科のあり方を展望するー」とし、特別講演3題、文化講演2題、教育講演13題、シンポジウム11テーマ44題、ランチョンセミナー11題、モーニングセミナー5題を企画、一般演題も336題の応募をいただき、様々な角度から脳神経外科医療の現状、課題、展望が示されました。

加えて、市民を交えた公開講座として、この学会が人類で初めての被爆都市広島での開催ということもあって、「ヒロシマは私達に何を語るか」という特別企画を組み、又、市民への健康増進を図る目的で「増加する脳神経疾患への予防と治療～脳疾患からみる2025年問題～」というテーマの市民公開講座も開催しました。

(次頁に続く)



メイン会場：フェニックスホール



開会挨拶：荒木 攻



会場：広島国際会議場



一般演題 発表風景

もくじ

- ① 第20回日本臨床脳神経外科学会を終えて
- ② ロボットスーツ HAL®によるリハビリテーション
- ③ 第20回日本臨床脳神経外科学会を終えて
- ④ 地域リハビリテーション連携の会 第10回リハカフェに参加して職員旅行に参加しました！！
- ⑤ 連携医療機関のご紹介 —— 緑井脳神経外科 ——



第20回日本臨床脳神経外科学会 開催報告

(前頁より)

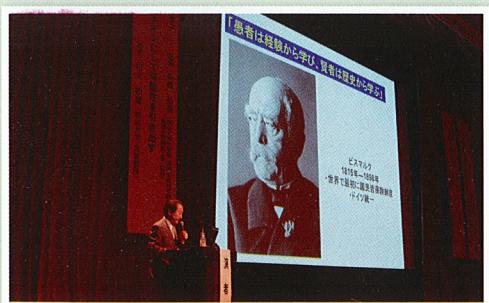
このような企画の中で、一つ一つがいずれも素晴らしい発表で、取り上げれば枚挙にいとまがありませんが、ここでは強く印象に残ったものを何題かお示しさせていただきます。

特別講演1では、山形大学嘉山孝正教授の「適正なガバナンスとは」において、組織のトップと現場の双方向性の重要性を説かれ、病院経営者の多いこの学会で皆感銘を受けていたようです。少林寺拳法グループ総裁 宗由貴氏による文化講演1「人はひとを幸せにするために生まれてくる」において、武道のイメージの強い少林寺拳法が互いを思いやる精神を育むための修行であることや、2025年問題に取り組んで、高齢者の健康増進に活用されていることが語られ、皆さん驚かれたのではないでしょうか。

教育講演は13題企画し、脳神経外科全般に亘りスタンダードを学べることを目的としましたが、素晴らしい講師の皆様によってスタンダードどころではなく大変高いレベルの内容のものだったため、コメディカルの皆さんには少し難しかった部分があったかも知れません。シンポジウム1の「人口減少・超高齢化社会における脳神経外科医の役割」では、大規模脳神経外科病院から中小規模脳神経外科病院の方々に、それぞれの立ち位置で講演をしていただきましたが、立場は異なるものの、脳神経外科医の関りはより大きくなるだろうという我々にとって明るい展望も示唆されました。シンポジウム10では、「脳血管内治療（血栓回収）」というテーマで行われましたが、2000年から厚生省（当時）が行った国民健康づくり運動、即ち「健康日本21」の中に、脳梗塞への積極的治療が打ち出されて久しかったのですが、最近やっと形になってきたようです。ランチョンセミナー6の広島大学歯学部栗原英見教授の「歯周病は脳血管障害と関連するか？」という講演は、意外と我々が知っていないくて大変興味深い内容で、今後、医科歯科連携の重要性を感じさせるものでした。ハンズオンセミナーでは、「ロボットスーツHALの仕組」というテーマで開催し、リハビリテーションの大きな前進がみてまいりました。

今回一般演題は、336題と多数の応募をいただきました。いずれも、脳神経外科医療の質と安全性の向上を目指す各医療機関の努力の様子が伺えるものがありました。

最後に御指導いただいた日本臨床脳神経外科協会の理事役員及び事務局の皆様、御支援いただいた全国の講師・座長の諸先生方、大会運営に多大な御協力をいただいた協賛企業の皆様等、多くの方々の御指導、御支援、御協力をいただいたからこそできたものであります。関係各位に改めまして心より厚くお礼を申し上げます。



山形大学嘉山孝正先生



少林寺拳法グループ総裁 宗由貴先生

第20回日本臨床脳神経外科学会
(医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院 理事長)
会長 荒木 攻

ロボットスーツHAL®によるリハビリテーション

人は脳から筋肉へ信号を送り運動をコントロールすることで思い通りに身体を動かすことができます。しかし、脳卒中や脊髄損傷などにより信号が途絶え、身体に麻痺が起こると思い通りに動かすことが難しくなり、歩くことや、食事をすることなどの日常生活に支障をきたすことが少なくありません。そのためリハビリテーションでは、運動麻痺の改善を促すため、立つ、歩くといった基本的な動作、食事やトイレなどの日常生活動作の再学習を進め在宅復帰を支援していきます。

近年、リハビリテーション分野では、ニューロリハビリテーションが注目を浴びています。ニューロリハビリテーションとは、「最新の脳科学の知見を、リハビリテーション医療に応用し、神経系の損傷あるいは疾患によって起こる機能障害の回復を最大限に引き起こす臨床専門分野」とも言われています。今回紹介するCYBERDYNE株式会社が開発したHAL® (Hybrid Assistive Limb®)は、ニューロリハビリテーションの中でロボットリハビリテーションとして位置づけられており、より効果的に麻痺の改善や運動学習を行う選択肢の1つとして、注目を集めています。

HALは、人が身体を動かしたいといった脳からの信号をキャッチし、その信号を增幅・コントロールすることで、円滑な運動を援助します。そして上手く動かせたといった感覚を反復して経験することで脳は身体の動かし方を再学習します。

現在、HALは、単関節HAL、下肢タイプHAL（医療用、自立支援用、福祉用）、腰HALといった様々なタイプが開発されています。中でも下肢タイプHAL（医療用）では、8つの神経・筋疾患（脊髄性筋萎縮症、球脊髄性筋萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、シャルコー・マリー・トゥース病、遠位型ミオパチー、封入体筋炎、先天性ミオパチー、筋ジストロフィー）にて保険適応が認められており、将来的に脳血管疾患も適応になるのではと予想されています。

当院では平成28年に単関節HALを、今年7月に下肢タイプHAL（自立支援用）を導入し、現在2種類のHALを展開しております。単関節HALは、その名のごとく1つの関節を動かすことができ、主に肘関節や膝関節の屈伸運動に使用します。下肢タイプは、歩行練習にて使用しています。

使用された患者様からは、「肘を動かす感覚が分かりやすい」、「足を出すのが軽く歩きやすい」などといった感想が聞かれ、歩行に介助が必要であった患者様が、安定した歩行となり、歩行速度も向上した方もおられました。

しかし、HALを使用するリハビリスタッフの知識や技術はまだ不足しており、日々患者様とともに成長段階です。今後も患者様に対してよりよいリハビリテーションが提供できるように精進していくたいと思います。HALの適応については、主治医の診断が必要となっておりますが、ご興味がございましたら、当院リハビリテーション部へお問い合わせ下さい。

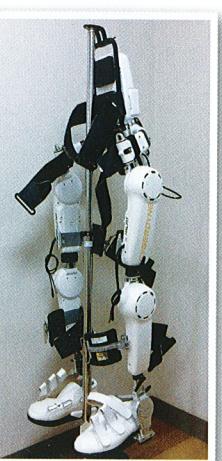
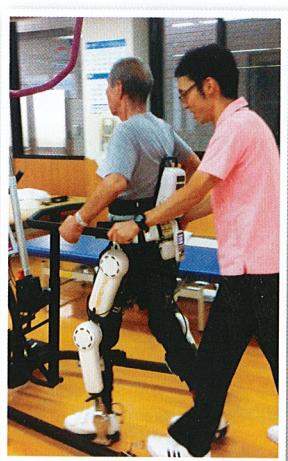
リハビリテーション部 理学療法士長 岩田 学



HALを使用した上肢機能訓練



HALを使用した歩行練習



HAL下肢タイプ



HAL 単関節

地域リハビリテーション連携の会 第10回リハカフェに参加して

平成29年6月14日西区地域福祉センターにて、「地域リハビリテーション連携の会 第10回リハカフェ」が開催され、参加してきました。当院は、平成25年4月広島県より「広島県地域リハビリテーション広域支援センター」の指定を受け、その取り組みの一つとして医療と介護の連携を目的としたリハカフェを開催しています。今年度は住みやすい地域をテーマにグループワークにて参加者が意見を出し合っています。リハカフェには様々な職種が集まるため、色々な視点からの意見が聞かれ、その後の業務に役立っています。また、顔の見える関係も構築でき、以後の連携にも役立っています。

是非、皆様も参加してみられては如何でしょうか。

地域連携室 係長 ソーシャルワーカー 尾崎 友哉



第10回リハカフェ

職員旅行に参加しました!!

インフルエンザの大流行で延期となった出雲大社への日帰りバス旅行が、この8月に出発となりました。行き先は岡山に変更となったものの、総勢　　名という大勢の職員が2班にわかつて参加となりました。

岡山県赤磐市のドイツの森ではゴーカートやボートで楽しむ子どもたち。初めてのアーチェリーに夢中になる大人たち、ワインの試飲で盛り上がったり、お土産なのか自分用なのかパンやお菓子をいっぱい買ったり。散策後は昼ご飯のBBQをドイツビールで楽しみました。

その後は移動して、備前焼の手ひねりを作成。焼き上がりが楽しめます。メインの桃狩りでは、デリケートな桃を木から収穫するという貴重な体験もできました。もちろん食べごろの桃の味は最高でした。

福利厚生委員のみなさん、いつも楽しい企画をありがとうございます。
次回はもっとたくさんスタッフで参加して、交流を深め仕事で必要なチームワークを高めていければいいなと思います。

看護部 師長 石田 敬子



楽しい思い出になりました



桃取ったぞ~!



備前焼体验



連携医療機関のご紹介

緑井脳神経外科

住 所：〒731-0103 広島市安佐南区緑井5丁目29-18-201

T E L：082-831-3230

F A X：082-831-3233

診療科目：脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科

院長名：吉岡 宏幸

病院URL：<http://www.midorii-nougeka.com>

診療時間	月	火	水	木	金	土	日/祝
9:00～12:30	●	●	●	—	●	●	—
14:30～18:00	●	●	●	—	●	●	—



院長 吉岡 宏幸先生

平成24年5月に安佐南区JR緑井駅前のクリニックビルに開院し、今年6年目を迎えた脳神経外科クリニックです。当ビルには、当院以外に内科（主に呼吸器内科）、眼科、皮膚科、産婦人科、小児科、メンタルクリニックが入っており、総合病院とまでは行きませんがお互いに連携を取りながら患者様に利便性が高い診療を行っております。

当院での診察

最近ではクリニックでも普及してきました1.5T MRIですが、当院ではいち早く導入し、総合病院へ受診しなくとも済むよう、より身近なところで精度の高い医療を提供できるよう診療を行っております。

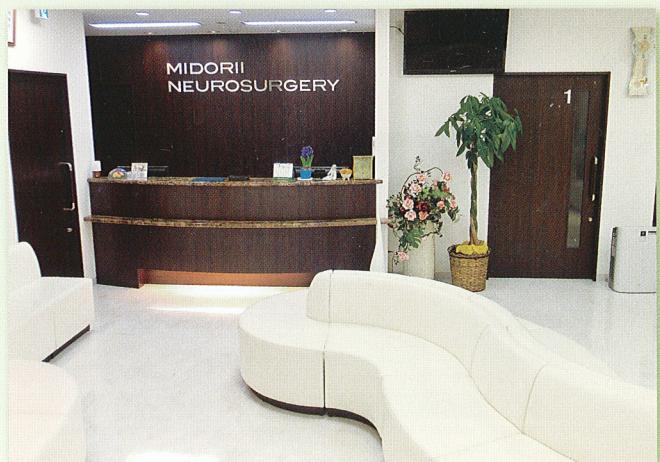
勤務医時代は、診療の中心に手術があり、特に緊急手術が多く、患者さんとの話に十分な時間が割けなかった事が多かったため、開業後はなるべく患者さんの声をしっかり聞くように努めています。認知症を含め 脳神経疾患全般に対して診察を行っておりますが、なかでも、脳血管障害の再発予防に特に力を入れて頑張っております。

勤務時は緊急でのMRI検査が難しかったため、通常、頭痛の患者さんは頭部CTを撮って明らかな異常所見がなければ、内服薬で経過観察とする事がほとんどでしたが、MRI検査を行いますと、若い患者さん、特に男性は椎骨動脈解離が考えていた以上に多いことに驚き、頭痛のみの患者さんであっても、MRI検査の必要性を実感しております。

荒木脳神経外科病院との繋がり

西区在住の患者様が当院で疾病が発見された時などは元より、安佐地区基幹病院に受け入れが困難な緊急患者様につきましても、快くお受け入れを頂き非常に助かっております。また、開業時より荒木脳神経外科病院から、甚大なご支援を頂いており、遠隔地画像診断に於きましても連携を頂き心より感謝しております。

今後ともご指導のほど宜しくお願い致します。



医療法人光臨会 理念

- 皆様に安心していただける、全人的な医療と介護を目指します

荒木脳神経外科病院 理念

- 脳神経外科としての専門性を軸に、幅広い診療体制で地域医療に貢献します
- 急性期医療の中核病院として、高機能で質の高いチーム医療を行います

運営方針

- 「医療の原点は救急である」
- 快適な療養環境と接遇の提供
- チーム医療の推進と相互啓発
- 「医療と福祉の複合化」の推進

患者様の権利

医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院は、職員全員が次のような患者様の権利を尊重し、納得と同意に基づいた医療を行います

- 個人の尊厳が守られる権利を尊重します
- 最善かつ安全な医療を受ける権利を尊重します
- 医療に関して知る権利を尊重します
- 個人のプライバシーが守られる権利を尊重します
- 自分自身の治療等について自分で決定する権利を尊重します
- 自分自身の治療について他の医師の意見を聞く権利を尊重します
- 苦情を申し立てる権利を尊重します

患者様の義務

- 患者様には適切かつ安全な医療を受ける為、診療上必要な自らの情報を正確に伝える義務があります
- 患者様にはお互いに快適な療養生活を受ける為に、定められた規則を守る義務があります。



外来担当医表

平成29年10月1日～

		月	火	水	木	金	土
脳神経外科	午前	初診(1診) 渋川	中原	沖	江本	荒木(勇)	広大
	初再診(2診)	荒木(勇)	谷	江本	沖	渋川	谷
	初再診(3診)	沖	太田	加納		加納	
午後	初再診	谷	加納 (1・3・5週) 沖 (2・4週)	広大	加納	沖	広大 江本

脳神経内科	午前	初再診(3診)			青木		
-------	----	---------	--	--	----	--	--

総合診療 (内科・外科)	午前	初再診(4診)	野村	浅本	藤井	浅本	藤井	野村
	午後	初再診(4診)	藤井	浅本	野村	浅本	野村	野村
	午前	検査		浅本		野村 浅本		
	午後	検査		浅本	野村	浅本		

脳神経外科 消化器内科	午前	初再診(5診)		荒木理事長				井上
----------------	----	---------	--	-------	--	--	--	----

診察時間

◆完全予約制

午前 9時～12時
(初診受付：午前 11時30分迄)
午後 3時～6時
(初診受付：午後 5時30分迄)

救急は 24 時間受付けております

※井上名誉教授
第1土曜日 月1回

医療法人光臨会



荒木脳神経外科病院

〒733-0821 広島市西区庚午北2丁目8-7
TEL 082-272-1114 FAX 082-272-7048
E-mail info@arakihp.jp
ホームページアドレス <http://www.arakihp.jp>

荒木訪問リハビリテーション

〒733-0821 広島市西区庚午北2丁目8-7
TEL 082-527-1123 FAX 082-527-1127

デイサービス あらき

〒733-0822 広島市西区庚午中2丁目11-15
TEL 082-507-6100

あんしんホーム(認知症対応型共同生活介護施設)

〒733-0822 広島市西区庚午中2丁目11-15
TEL 082-507-6600

荒木居宅介護支援事業所

〒733-0821 広島市西区庚午北2丁目1-4-201
TEL 082-507-6300

案内図



交通案内

○自動車

西広島バイパス「庚午出口」より
宮島方向へ100m(宮島街道沿い)

○広島電鉄・宮島線／「東高須」下車 徒歩3分

○広島バス25号線／「庚午北2丁目」バス停前

お知らせ

平成29年10月より、診療体制が新しくなりました。

今後も地域医療に貢献してまいりますので、何卒一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう
お願い申し上げます。